

景観構成要素と生活・生業の関係性の導出とその課題 — 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究 —

準会員○森下 泰敬^{*1} 佐藤 誠治^{*4} 姫野 由香^{*3}

7. 都市計画—6. 景観と都市設計 都市計画

景観管理・まちなみ ワークショップ 歴史的景観 景観イメージ・景観評価 景観計画・景観整備

1 背景と目的

2005（平成17）年に制定された「重要文化的景観」の保護制度とは、日本の人々の生活や風土に深く結びついた地域特有の景観の重要性が見直されるとともに、その保護の必要性が認識されるようになってきた動きを受けて景観を重要文化財として制定し保護していく制度である。一方、大分県別府市は、豊かな温泉資源による様々な産業が古くから発達し、その生活及び生業により現在の景観を形成している。そのなかでも鉄輪・明礬温泉地区では世界的にも希有な湯けむりによる景観を見ることができ、近年この「湯けむり景観」を「重要文化的景観」として選定し、後世に残すべき景観として、一体的に保護しようという取り組みがこの両地区で始まっている。

また、別府市鉄輪・明礬温泉地区を対象とした既往研究では、文献調査、ヒアリング調査、住民や外来者の意見抽出により、文化的景観を構成し得る景観構成要素を抽出している。これらの景観構成要素は人々の生活・生業によって相互に関係付けられて存在し、当該地域の景観が成り立っている。ゆえに文化的景観を保存していくためには、単に景観を構成する各要素を保存していくだけではなく、それらの関係性や人々の生活・生業を理解し、その保全に努める必要があると言える。

そこで本研究では、まず文化的景観を構成する上で重要な要素を地域の生活や生業、歴史等の観点から抽出し、それらが両地区内に如何に分布し、地域の文化的景観を構成しているのかを把握する。その結果、人々の生活・生業と当該地域の景観との相互関係を明らかにすることを目的としている。

2 対象地区について

別府八湯^{注1)}の一つである明礬温泉地区（図1）は、伽藍岳の中腹標高400mにあり、別府市街地の北西部

に位置している。1281（弘安4）古くから湯治場として栄え、明礬や湯の花^{注2)}が採取されてきた地区である。地区全体は傾斜地となっており、高低差は約50mになる。

地蔵泉、鶴寿泉、薬師泉がそれぞれ離れた場所につくられ、1671（寛文11）日本初の明礬製造が開始される。1885（明治17）明礬製造から湯の花製造へと産業が移り変わり、現在の明礬温泉地区の特徴的である湯の花小屋^{注3)}の誕生や湯けむりによる景観が創出された。そして、共同温泉を中心に旅館棟数が徐々に増加し、湯治場が形成された。特に1885（明治18）—1936（昭和11）の間に湯の花小屋の数が増え始め、現在に至るまで、湯の花小屋は男手の不足、国道の開通、大火など様々な要因により増減を繰り返し、現在の数（2010年現在64棟）になっている。



図1 明礬温泉地区

3 生活・生業の変遷による重要文化的景観構成要素

3-1 重要な文化的景観構成要素の抽出

既往研究において、文献調査、ヒアリング調査、住民、外来者の意見抽出により、文化的景観を構成し得る景観構成要素が導出されている。そして重要文化的景観の定義^{注4)}から、文化的景観が生活や生業との関わりによって築かれてきたことを重視して要件を設定する。特性を把握するために、「生活・生業との関係」・

「原風景形成期^{注5)}との関係」・「管理・運営との関係」についても表に示した。当てはまる要素は重要文化的景観を構成し得る要素として抽出した。色が付いている部分が該当する(表1)。

重要な文化的景観を構成し得る要素として抽出されたのは18の要素であった。「湯の花小屋」「湯の花小屋」「湯の花精製所の石製門^{注6)}」など、当該地区特有の湯の花に関わるものが要素として挙げられている。その他には「旅館」や「共同浴場」といった建造物やそれら付随する「地獄釜」や「気液分離装置」がある。

但し、「地蔵泉」は1281(弘安4)に創られたとされており、当該地区の3つの共同浴場の中で最も古い歴史をもつ。しかし、現在は利用されていない。重要な景観構成要素として利活用していくべきだと考えられる。

表1 重要な文化的景観を構成する要素

景観要素の分類	要素群	名称	生活・生業との関係			原風景形成との関係		管理・運営と住民との関係	
			過去の景観形成の 下記への関係	現在から過去まで続いた 下記への関係	現在から過去まで続いた 下記への関係	原風景形成期に 存在の有無	原風景形成期から 現在までの景観形成 の継続の有無	利用による管理・運営の有無	利用による管理・運営の有無
自然要素	地形	山	○	○	○	○	○	○	○
		谷	○	○	○	○	○	○	○
		河川	○	○	○	○	○	○	○
		平地	○	○	○	○	○	○	○
		丘陵	○	○	○	○	○	○	○
		山頂	○	○	○	○	○	○	○
		谷筋	○	○	○	○	○	○	○
		山麓	○	○	○	○	○	○	○
		山腰	○	○	○	○	○	○	○
		山頂	○	○	○	○	○	○	○
人工	建築物	神社	○	○	○	○	○	○	○
		旅館	○	○	○	○	○	○	○
		共同浴場	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
景観	その他	温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○
		温泉	○	○	○	○	○	○	○

- ※1 地質自体は原風景形成期後の昭和50年代～平成初期の間に形成されているが、湯の花小屋は原風景形成期から存在しており、現在まで湯の花小屋は新設で消失を繰り返していると考えられる。
- ※2 建築物の一部は原風景形成期から残存。
- ※3 長々は神社であり、昭和50年代には神社の建物も改修し、公民館へと機能が移行している。
- ※4 大アングルの屋根および平屋根により、明瞭さが乏しい。
- ※5 明治37～昭和14には湯の花製所が存在していたが、解散後は湯の花製所の管理である。
- ※6 昭和30年代で使用が廃止されているため、これは廃壊されなくなっているから変化がないと判断される。
- ※7 1958(昭和33)年には温泉旅館が存在していたことが明らかになっている。また、原風景形成期に建設された写真より、残存している温泉旅館は原風景形成期のものであると判断される。
- ※8 対象地域に存在している温泉であり、個別に管理されている(つくかえられている)。
- ※9 対象地域内に存在する共同温泉の入口近くに、温泉像が設置されているため、共同温泉と同様に表示されている。

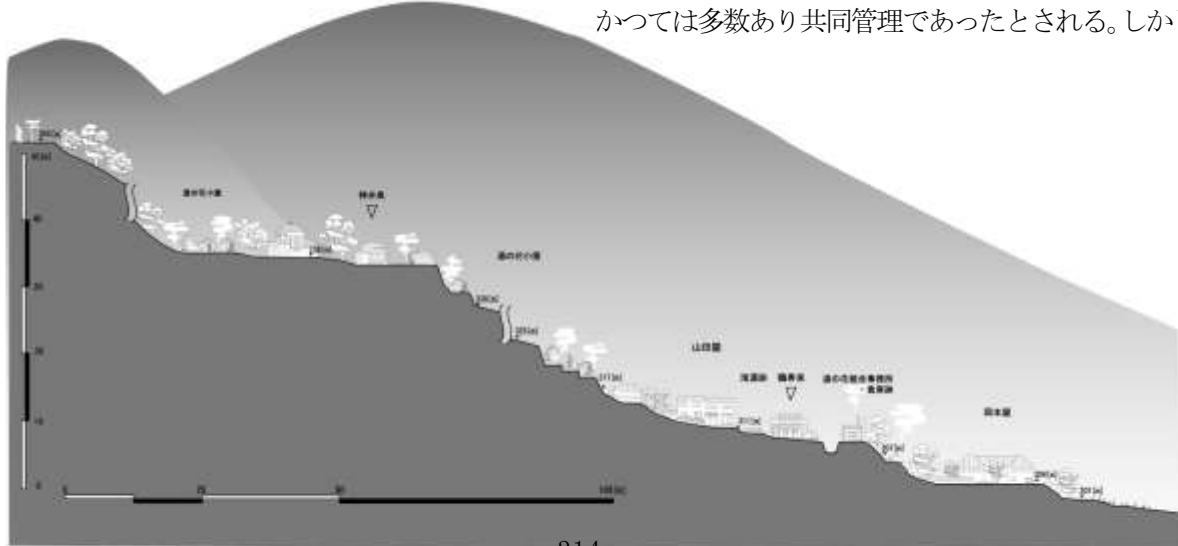
重要文化的景観構成要素の要件

- 地域独自の生活・生業と関係が有り、その機能が現在まで継続されている要素
- 地域独自の生活・生業と関係が有り、「湯けり湯釜」を構成する上で不可欠な要素のうち、その機能が現在まで継続されている要素
- 生活・生業との関係が乏しいはあっても、機能が変化し現在も管理運営がなされる要素

3-2 景観構成要素の分布

全体図面(図3)より、明礬温泉地区の湯の花小屋の分布は、地区北部の山側と中央に大分できることがわかる。かつて明礬温泉地区は中央を流れる小川によって区切られ、南部は森藩久留島侯の領地で鶴見村、北部は天領で野田村に属していた。湯の花採取場所hが2分しているのは、この歴史と関係が深い。また、現在は地蔵泉、鶴寿泉、神井泉の3つの共同浴場を中心に貸間や旅館が取り囲む様に建ち並んでいることがわかる。これらの共同温泉をつなぐ道が1884(明治17)～1948(昭和23)のメインストリートであったと考えられ、土地利用の変遷^{注7)}と要素分布の傾向から現在の明礬温泉地区は3つのエリアに分けられる。かつて天領であった地区の北部には住宅が多く存在し、山側に湯の花小屋が密集している。ここは、湯の花製造により栄えてきた地域である。これは、湯の花精製所の石製門があることからわかる。現在は、商業の拠点となる売店^{注8)}が存在するが全体として住民が多く暮らすエリアでもある。かつて森藩であった地区の南東部は、鶴寿泉を中心として、旅館街として栄えてきた。現在も明礬温泉地区にあるほとんどの旅館がこのエリアに存在している。また、薬師湯の滝湯跡や湯の花組合事務所・倉庫跡など湯の花製造や地区の歴史を現在に伝える重要な構成要素が残っているエリアでもある。地区の西部は、地蔵泉を中心に以前は南東部と並んで栄えたエリアである。公民館、旅館、住宅が混在している。現在は休業している旅館が多く、衰退が懸念されている。また、西部の中心に分布する地蔵泉は湯量の減少を理由に現在は閉鎖されている。

明礬温泉地区の地獄釜は、ヒアリング調査によると、かつては多数あり共同管理であったとされる。しかし、



314
図2 明礬温泉地区 断面図

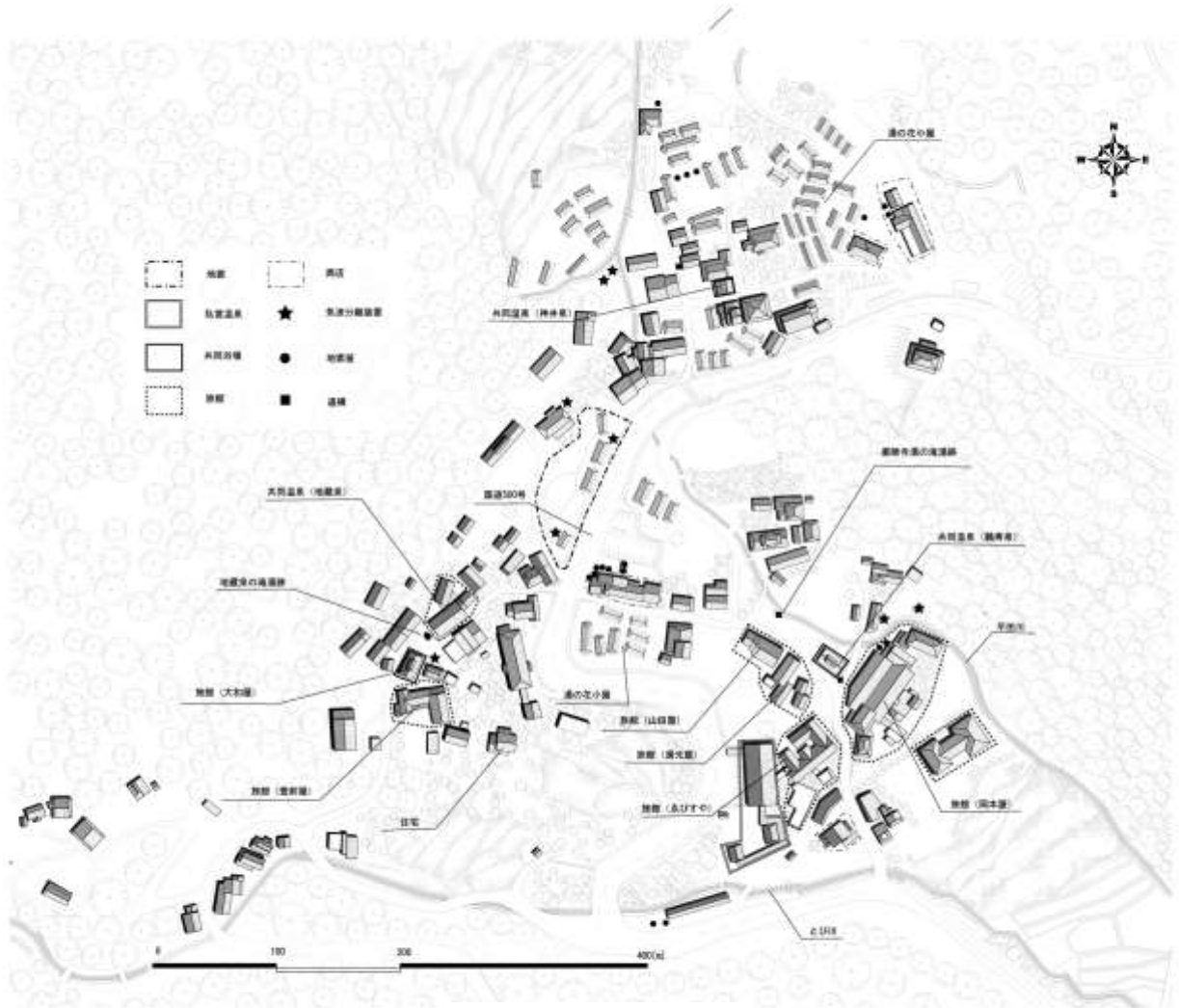


図3 明礬温泉地区 全体図

現在は12個と数が少なく、これらは土地所有者に管理されている。

景観構成要素の相互関係や生活・生業との関係性を中心に考察する。



図4 神井泉周辺

4 景観構成要素を含むシーン

本章では3章で述べた重要な文化的景観を構成し得る要素により当該地域でどのような景観が形成されているのかをいくつかのシーンを例に詳説する。この際、

明礬温泉地区は山裾から広がる地域であるため、周りは山に囲まれており地区のどの場所からでも後背緑地を視認できる(図4, 5)。図の左の共同浴場である「神井泉」は、縦の羽目板張りと鎧張りが混在している壁面^{注9)}が特徴的である。1968(昭和43)には所在が確認されており古くからこの地区に存在していたと考えられる。施錠されており混浴であることから地域住民専用の共同浴場である。源泉は脇屋商会^{注10)}が有しており、管理運営は利用客である地域住民が行っている。

「神井泉」奥に映る「石垣」も脇屋商会周辺から掘り出した別府石を用いて作られたものである。特に明礬温泉地区独特の景観を構成しているのが「湯の花小屋」である。この地域は天領の地で古くから明礬や湯の花の生成に力を入れていた。脇屋家が領地を譲り受けて

からも湯の花の生成に力を入れていたため、この辺りや山裾に湯の花小屋が多く現存している。

生活や生業が成立しているのかを、建築物調査やヒアリング調査により明らかにしたい。



図5 地獄周辺

図5左に観察できる湯けむりは「地獄釜」から発生している。この「地獄釜」は岡本屋売店の所有である。蒸した卵などを店で提供している。鉄輪温泉地区に比べると地区全体の「地獄釜」の分布数は少なく、また湯けむり景観創出の中心となる「気液分離装置」も数が少ない。そのため、鉄輪温泉地区のような遠距離型の湯けむり景観ではなく、湯の花小屋や側溝から立ち上る湯けむりにより、このような近距離型の景観が特徴的である。

同様に近距離型の湯けむり景観を創出するものとして「明礬地獄」がある。図5手前に写っている。高温で歪な地面が露出しており、直接地面から湯けむりがあがっており、類似した自噴口が同地区には複数見られる。「湯の花小屋」はこのような地獄を利用してつくられている。「湯の花小屋」から漏れ出す湯けむりも当該地区の特徴である。

5 総括

本研究では、まず既往研究によって抽出されている文化的景観を構成する要素の中から、重要文化的景観の定義に基づき、より重要な要素を抽出した。加えて当該地域におけるそれらの分布を確認した。その結果、当該地域の空間構成の特性を把握することができた。さらにいくつかのシーンを例にして、実際の景観がどのように構成されているのかを詳説し、各構成要素の相互関係や人々の生活又は生業との相互関係を明らかにした。

今後は、これらの特性を有した当該地域において、地域に関係する様々な主体がどのように利用しながら

【補注】

- 注1) 別府八湯「別府市内の8つの代表的な温泉地の総称」浜脇・別府・亀川・鉄輪・観海寺・堀田・柴石・明礬温泉
 注2) 湯の花「湯の花小屋と呼ばれる瓦葺小屋を建て、小屋の中に青粘土敷き詰め、粘土から析出し結晶化したもの」
 注3) 湯の花小屋「湯の花を精製するための小屋。内部の温度を一定に保ち雨漏れせず、蒸気中の水分を藁屋根が水滴とならず、屋外へ放出する。」
 注4) 重要文化的景観の定義「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理科二のため欠くことのできないもの(文化財保護法大ニ条第一項第五号より)」
 注5) 原風景形成期「文献による歴史調査や住民へのヒアリングによって、重要文化的景観の特徴が築かれた期間を「原風景形成期間」として抽出している。明礬温泉地区の湯けむり原風景形成期間は1885(明治18)～1936(昭和11)と定める」
 注6) 湯の花精製所の石製門「明礬温泉地区東部・脇屋商會が保有する湯の花小屋倉庫群の一角に所在する石製門」
 注7) 土地利用変遷「平成20年度 湯けむり景観保存管理のための専門調査報告書 pp.222～230」
 注8) 売店「明礬温泉地区に位置する、湯の里」
 注9) 羽目板張り「板を平らに隙間なく張り合わせる方法」
 鎧張り「板を少しずつつねながら張り合わせる方法。土が身に着けた鎧の姿に、見えることから命名された。」
 注10) 脇屋商會「別府市明礬で「薬用湯の花」を製造している会社」

【参考文献】

- 1) 西久保裕子、山口洋介「重要文化的景観における景観構成要素の抽出とその保存価値の分析に関する研究 - 別府市鉄輪・明礬温泉地域において -」
 2) 福井彩乃、佐藤誠治、姫野由香「古写真にみる景観変容と選考景観の構図の特性 別府市鉄輪・明礬温泉地区の重要文化的景観指定に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1 分冊, pp.981～982, 2009.8
 3) 別府市誌、第1巻～第3巻
 4) 湯けむり景観調査報告書
 5) 野見山周作、富山晃一、木方十根、高尾忠志、福島綾子「福江宮原地区における集落景観の変遷とその景観構成単位—下五島のキリスト教系集落の文化的景観に関する基礎的研究 その1、その2—」日本建築学会九州支部研究報告、第48号、pp.361～368, 2009.3
 6) 横井秀紀、松本将一郎、西山徳明「文化的景観における景観デザインに関する研究 重要文化的景観「小鹿田の里」景観整備計画に向けて」日本建築学会九州支部研究報告、第48号、pp.377～380, 2009.3
 7) 松本将一郎、麻生美希、柿原芳章、山口知恵、西山徳明「日田市「小鹿田焼の里」文化的景観の保存計画に関する研究—その2— 一土地利用の変遷からみる文化的景観の分析—」日本建築学会九州支部研究報告、第47号、pp.373～376, 2008.3
 8) 大森洋子、中之丸論志「小鹿田焼の里」文化的景観の保存計画に関する研究—その5— 一皿山の文化的景観の特性—」日本建築学会九州支部研究報告、第47号、pp.361～364, 2008.3

*1 大分大学工学部福祉環境工学科 学部生
 *3 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)
 *4 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 博士(工学)

Undergraduate Student, Oita Univ.
 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng
 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng